

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
漢字を文章の中で使えるようになることや日常の中で使うことのできる語句の量の増加など基本的語彙力の向上。	「読むこと」における、文章の内容を理解したり、内容をもとに考えたりする力の向上。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校で学習した漢字を書けない・読めないなど、基礎・基本が定着していない生徒が多い。 イ 叙述や描写に注目し、自分の意見を根拠をもって考えることが難しい。	ア 新出漢字や文法、ことわざなど意味や文、使用場面を提示しながら学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ 根拠となる記述に線を引かせ、それをもとに考えたことを説明する活動を行う。	ア 市学力調査【知識・技能】 正答率 52.9 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率 51.3 所見 特に説明的文章の読解・情報の扱い方に課題がある。
第2学年	ア 小学校で学習した漢字を書けないなど、基礎・基本が定着していない。 イ 叙述や描写に注目しながら、事実と意見の関係や登場人物の心情の変化を捉えることができない。	ア 新出漢字や文法、ことわざなど意味や文、使用場面を提示しながら学習させ、小テスト等を実施して定着を図る。 イ 教材の中で重要な部分に線を引かせたり、考えたことを説明させたりすることを通して、文章の内容の理解を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】 正答率 54.0 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 正答率 45.4 所見 漢字の書き取り・説明的文章の読解に課題がある。
第3学年	ア 漢字検定5級レベルの漢字が書けない。 イ 筆者の意見を踏まえた、自分の考えを書くことができない。	ア 新出単語を書かせる。毎週、漢字の小テストを行う。 イ 筆者の意見を見つけ、それをまとめさせる。	所見 課題文を読み、200～400字の作文、小論文を書く力がついている。また、基礎的な漢字の書き取り、読み取りの力は向上した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年：単元の意味調べ、課題等の共有を行う際に活用する。また、学習テーマに対して、生徒一人一人に合った形での学び、またその共有の際に利用する。 2年：学習テーマに対して、生徒一人一人が自分の個性や経験に応じて考えをまとめたり、互いの考えについてアドバイスし合ったりする場面などで活用する。 3年：単元の意味調べや、書いた文章の共有の際に活用する。	1年：第1時に必ず授業全体の見通しを共有する。単元の最後には、自己の学びを振り返る活動を実施する。 2年：単元の最初に生徒が自分で力を入れる項目を設定し、単元の最後で自分で振り返らせる取り組みを実施し、自分の力に合わせて取り組ませる。 3年：毎授業後に振り返りシートに取り組ませる。